

将来計画委員会議事録

日時 : 2016年3月11日(金) 15:00~17:00

場所 : 八重洲倶楽部 第5会議室

出席者 : 水船 秀哉(武田薬品), 青山 恭規(塩野義製薬),
イリエシュ ラウレアン(東京大学), 佐藤 隆章(慶応大学), 丹羽 誠司(味の素),
間瀬 暢之(静岡大学), 道田 誠(第一三共), 村瀬 徳晃(大正製薬),
吉澤 一洋(エーザイ), 林 泰正(アステラス製薬, 記)

欠席者 : 赤井 周司(大阪大学), 伊藤 伸浩(和光純薬), 手嶋 崇雄(田辺三菱製薬)

オブザーバー : 富岡 清(同志社女子大, 日本プロセス化学会会長)
(敬称略)

【議題】

1. 第10回プロセス化学ラウンジ報告(丹羽氏)
2. 第11回プロセス化学ラウンジに向けて
3. プロセス化学会の将来のあるべき姿について
4. 新規取り組みについて
5. 委員交代について

【内容】

1. 第10回プロセス化学ラウンジ報告(丹羽氏)
 - 世話人の丹羽氏より, 内容とアンケート結果が報告された。
 - プログラムは企業4題, 大学2題の合計6題。企業からは失敗談や組織・体制の紹介などシンポジウムでは聴けない内容も多く, 活発な議論が行われた。夜の交流会でも盛んに他社交流が行われていた。
 - 講師の方から大学からの講演はほかでも聴けるので, ラウンジは企業からの講演に限定した方がよいという意見もあったが, 現状の企業4題, 大学2題のバランスがよいという意見もあり。
 - 参加者は7割が初参加。職場の人に参加を勧められた人が多かった。
 - 講演数, 講演時間はほとんどの参加者が現状でよいと回答。
 - 初日は10時開催というところから, 半数の方が前泊をされていた。
 - 会場で前泊はできないかという意見があったが, 和光純薬様の研修所なので, 前泊だけでは難しいのではないかと。
 - 参加者から講演内容についてはルート検討, 結晶形制御の希望が多いが, 医薬以外の話題という意見もあり。
 - 開催プランは参加者の過半数が今回のプランを希望しているが, 4分の1が第8回まで実施していた木曜日13時開始, 金曜日昼食後解散のプランを希望している。今後, 検討の余地はある。
 - 開始時間と2日目については半数の参加者が前泊をしたものの, 4分の3が10時でよいと回答。2日目は4分の3が朝食後解散でよいと回答。
 - 参加者のコメントから若手交流会の場をプロセス化学会にて機会を作ってほしいとの意見もあり,

今後のイベントづくりの参考になるのではないかと。

- 概ね今回のスタイルで不満足意見は少なく、マンネリ化は感じられないが、開催プランや講演以外のイベント(ポスター、パネルディスカッション、テーマを決めて全体討議やチーム討議など)も検討してみてもどうか。
- 以前、パネルディスカッションや全体討議を実施したことはあるが、盛り上げるのは結構難しかった経験あり。交流会で親くなった後、例えば2日目に開催するなど工夫すれば、盛り上がるかもしれない。
- ラウンジの原点は企業間の勉強会を発展させたもので、他のイベントよりも講演の内容をネタに盛り上がったほうがよいという意見あり。シンポジウムや年会のようなものとは違う位置づけで考えたほうがよい。
- 第6回より湯河原で開催しており、初参加の方が多くことから、今後も湯河原開催で問題ないと思われる。ただし、他の地域での開催も排除せず考慮していくが、予算面、世話人の負荷等の課題はある。他地域で開催する場合は世話人を複数人とするなどの対応が必要と思われる。

2. 第11回プロセス化学ラウンジに向けて

- 前回委員会で世話人は青山氏(塩野義)で決定していたが、会社の業務の都合上、委員退任と世話人辞退の申し出があった。
- 青山氏に代わり、道田氏(第一三共)を世話人として決定した。なお、青山氏より委員後任は塩野義製薬より選出予定で、第12回世話役は塩野義製薬からの委員が担当することを提案いただいた。
- 第10回のアンケート結果及び今回の委員会の議論をもとに道田氏に第11回案を検討いただく。
- 開催日程は12月頃、ウインターシンポジウムと重ならない日程で考える。
- 和光純薬様の湯河原研修所を利用させていただく場合は早めの仮予約が必要。

3. プロセス化学会の将来のあるべき姿について

- 現在のプロセス化学会の取り組みや組織について確認した。
- 学会ホームページの運営を今後どうしていくかが課題としてあがった。現在は学会の専任の事務局がないため、富岡先生、佐治木先生、森重さんで運営いただいている。事務業務を外部委託するとコストがかかる。化学会の東海支部では中部科学技術センターに委託している例がある。結論は出なかったが今後の課題として認識。
- 将来計画委員会でシンポジウムの運営を一度実施してみてもどうかという意見あり。今後の検討項目。
- 年2回の委員会では時間も限られているため、メール等を活用しながら委員間でアイデアや提案を出し合いながら委員会として将来のあるべき姿を議論していく。

4. 新規取り組みについて

- 技術資料や技術レビューの発信について前回から引き続き議論した。
- 海外メガファーマが共同でコンソーシアムのようなものを結成し、ある技術テーマについてレビューを学術雑誌に投稿しているので、そのようなことが日本でもできないかというのが提案の発端。

- 情報の対象をどのレベルにするか、発信方法をどのようにするかを考えるとなかなか前に進まないし、完成形のハードルを上げると負荷も大きい。
- プロセス化学会のホームページを活用したらどうか。
- まずは、技術領域も絞らず、有用な論文リンクを学会ホームページで紹介していき、ある程度集まってきたら整理し、レビューを作成するのはどうか。ケムステーションのプロセス化学版のようなイメージ。
- 大学の研究室のホームページにpKa データなどのリンクページがあるが、そのようなものを学会のホームページに置いても有用かもしれない。
- まずは、学会のホームページに技術情報のページを作成して、論文リンクを付けて提供していくことを理事会で提案する。運営は将来計画委員に限定することもなく、委員 OB で賛同いただける方は巻き込んでいく。

5. 委員交代について

- 退任:伊藤 伸浩氏(和光純薬), 就任:原 敦治氏(和光純薬)。
- 退任:青山 恭規氏(塩野義製薬), 後任は塩野義製薬より選出予定。

【次回委員会予定】

- サマーシンポジウム前日(7/27)に名古屋国際会議場で開催する予定。詳細は後日連絡。

以上